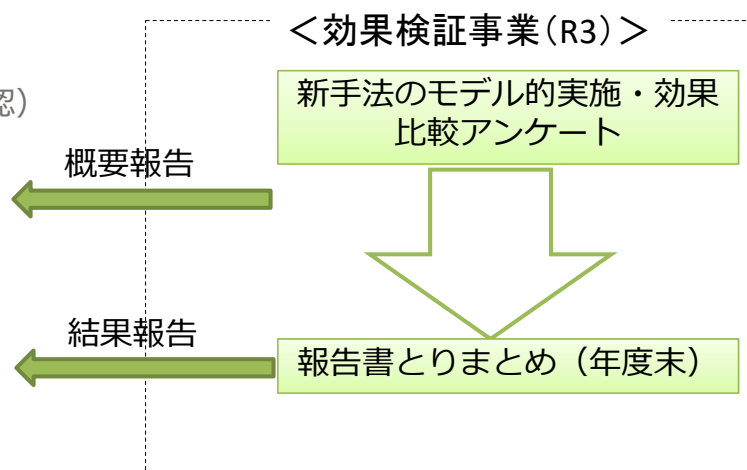


MY 行動宣言改訂に関する今後の論点について

行動変容WGの進め方について（R4.11時点）

（R3年度）

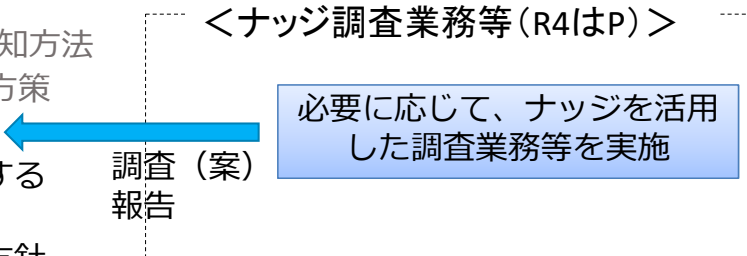
- 11月～ **J-GBFの設立**
 - ・ 設立（趣意、要綱の承認）
- 1月 **行動変容WG①**
 - ・ 立ち上げ
 - ・ ナッジについての報告
 - ・ 効果検証事業概要報告
- 3月 **行動変容WG②**
 - ・ 効果検証事業結果報告
 - ・ 新MY行動宣言の検討
 - ・ R4事業のアイデア相談



（R4年度）

- 6月 **行動変容WS**
 - ・ MY行動宣言の改訂内容
 - ・ MY行動宣言の露出・周知方法
 - ・ 行動変容を促す新たな方策
- 11月 **行動変容WG③**
 - ・ MY行動宣言改訂に関する今後の論点整理
 - ・ ナッジ調査業務の実施方針

＜ナッジ調査業務等（R4はP）＞



※今年度中に
あと1回開催予定

MY行動宣言の概要

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J/委員長：経団連会長、事務局：環境省)が推進する生物多様性の普及啓発ツールの1つ。これまでの宣言数は約26万件。

目的：将来にわたって、生物多様性のもたらす恵みを受けていくために一人ひとりが生物多様性との関わりを身近な生活の中で実感し、行動してもらう。

内容：5つのアクションの中から自分にできそうなアクションを選んで宣言する。

5 アクション

Act 1 たべよう じもと 地元でとれたものを食べ、
しゅん 旬のものを味わいます。

Act 2 ふれよう しぜん なか で どうぶつえん すいぞくかん しよくぶつえん
自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園
などを訪ね、自然や生きものにふれます。

Act 3 つたえよう しぜん すば 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、
しやしん え ぶんしょう 写真や絵、文章などで伝えます。

Act 4 まもろう い 生きものや自然、人や文化との「つながり」を
まも ちいき ぜんこく かつどう さんか
守るため、地域や全国の活動に参加します。

Act 5 えらぼう エコラベルなどが付いた環境に優しい
しょうりん えら 商品を選んで買います。

国連生物多様性の10年日本委員会
国連生物多様性の10年日本委員会
生物多様性を守るために、私たちができるアクション！
MY行動宣言
生物多様性とは、たくさんの生きものがつながりあって暮らしていること。
生物多様性を保つためには、まずは暮らしの中で、生きものとのつながりを
感じることが大切。家や学校はもとより、街のあちこちで、生きものとのつながり、
自然の恵みを感じ、自然や生きものにふれ、自然や生きものを大切にする。それが、
生物多様性を保つことにつながります。

Act 1 たべよう じもと 地元でとれたものを食べ、
しゅん 旬のものを味わいます。

Act 2 ふれよう しぜん なか で どうぶつえん すいぞくかん しよくぶつえん
自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園
などを訪ね、自然や生きものにふれます。

Act 3 つたえよう しぜん すば 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、
しやしん え ぶんしょう 写真や絵、文章などで伝えます。

Act 4 まもろう い 生きものや自然、人や文化との「つながり」を
まも ちいき ぜんこく かつどう さんか
守るため、地域や全国の活動に参加します。

Act 5 えらぼう エコラベルなどが付いた環境に優しい
しょうりん えら 商品を選んで買います。

お住まいの自治体
姓 氏名 性別 年齢
〒 市町村 区 丁目 番 号
電話番号
Eメール
宣言日
宣言場所

手法1：イベント等でシートで宣言 手法2：ネットで宣言 <http://undb.jp/spread-action/entry/>

2

MY行動宣言の課題等

第1回行動変容WG資料より引用

【論点①】

・宣言内容の改善について

- より具体的な行動を促すための内容面での工夫は可能か？

【論点②】

・宣言方法の改善について

- 行動の内容をチェックすれば宣言可能。本当に具体的な行動に繋がっているか？
- 宣言後は、手元にシートは残るが、存在を忘れてしまうのではないか？
- フィードバックやフォローアップがないので、継続しないのではないか？

【留意点】

- ・作成した「新MY行動宣言」を普及していくのは、ポストUNDB-Jであり、限られた予算内でツールを作成・維持管理する必要がある。
- ・デジタル技術の活用も視野に入れつつ、可能な限りローコストでのフィードバック等を考える必要がある。

3



生物多様性を守るために、私たちにできる5つのアクション！

MY行動宣言

私たちの暮らしは生物多様性がもたらす自然の恵みによって支えられています。生物多様性の恵みを受け続けられるように、5つのアクションから日常の中でできることで考え、記入しましょう。そして達成できたアクションには右のアイコンを塗り、いつも見られる場所に貼って行動できるようにしましょう！

1 たべよう

例えば▷地元の野菜を食べることで、運搬に伴う環境負荷の軽減に貢献します。

私は、



2 ふれよう

例えば▷休日は近くの都市公園へ出かけ、季節の花や鳥を観察します。

私は、



3 つたえよう

例えば▷写真を撮るのが趣味なので、Instagramでみんなにも共有したいです。

私は、



4 まもろう

例えば▷近所の清掃活動にできるだけ参加しようと思います。

私は、



5 えらぼう

例えば▷服を買うときは、ながく愛用できるものを選びます。

私は、



4

今年度の調査検討①（環境省のナッジ事業の一部として実施）

MY行動宣言における課題抽出、ナッジ効用の把握を行うため、以下の調査を実施する。

- (1)何も実施しない人
- (2)現在のMY行動宣言にて宣言する者
- (3)ナッジの効用を期待した新MY行動宣言(仮)にて宣言する者

の3グループに分け、一定期間前後に行動変容の程度についてアンケート調査を実施する。アンケートにおいては、効果や課題等について聞き取り、今後のWGにおける活動へ生かす情報を収集する。

【ナッジ効用の検討案】

- ・行動内容を具体的に記載する → 理解の醸成や宣言の効果を高められないか。
- ・達成した場合に、アイコンを色塗りする → 振り返る機会を創出できないか。
- ・目立つところに設置、写真撮影する → 宣言の効果を高められないか。

5

R 3 調査検討 – MY行動宣言、ナッジ検証

- MY行動宣言（2種）を宣言した者としていない者で、4週間後の生物多様性保全に関する行動・意識に関する事後調査を実施した。（2021.11.23～12.20）

群	人数	解説資料	My行動宣言シート 配布	MY行動宣言 を記入	事後 アンケート
対照群	300人	×	×	×	○
介入群1	300人	○	○既存シート	○チェックのみ	○
介入群2	300人	○	○改良版シート	○具体的取組みを自由 記入	○

解説資料

既存の My行動宣言シート
項目をチェックする様式

改良版の My行動宣言シート
具体的に出来ることを手書きする様式
(実施したら右側のマークを塗りつぶす)

6

MY行動宣言 今後の方向性（案） 第2回行動変容WG資料より引用

- 宣言してもらう対象や宣言方法に応じて、今後以下のような工夫を検討したい。

■ 従前のMY行動宣言（チェック式・介入群1）でも効果があるため、引き続き活用する。

- Webでの呼びかけなど、汎用的に使用する場合は、引き続き従前の「MY行動宣言」の活用を検討

■ イベントでの呼びかけなど、より強く働きかけができる場合であり、今回有意差が見られたケース（体験・発信・保全活動等）は、新しいMY行動宣言（記入式・介入群2）を活用する。

- スタッフ等が直接働きかけることができるイベントなどでは、記入式の「MY行動宣言」の活用を検討

⇒関心がある方と、ワークショップ形式で議論した上で、次回MY行動宣言改善案を提示したい。

7

WG及びWSにおけるMY行動宣言関連のご意見

行動変容WGで頂いた主なご意見

- ・ MY行動宣言、生物多様性の認知の後に、実際の行動につながっているかが大事。宣言の後に何を求めるのか、行動の部分を整理してから、宣言を考えるべき。
- ・ どの場面で、誰にどうやって見せるか。その直後にどういう行動があるのか、という戦略が必要。
- ・ GBFターゲット7を踏まえ、農業版のMY行動宣言を作成するのはどうか。
- ・ GBFのターゲット14～16を踏まえ、ビジネス界や自治体向けのMY行動宣言を作成してはどうか。（現行の宣言は個人の生活者が対象）
- ・ 生物多様性の損失につながる行動を変えるためのツールとして、世界的なレポートにあるような生物多様性の損失要因や変えるべき点と宣言の内容が合っているか。
- ・ 農水版や子ども版など運用で広がっていく部分について、言葉をどこまで変えて良いのか、フレームの中でどう活用していくか、広げていくか。

WSの主な意見

- ① MY行動宣言の5つのアクションのよりわかりやすい表現について
 - ・ 自分の生活にどう繋がるのか、生物多様性にどう貢献するのかを分かりやすく示すべき
 - ・ 表現自体を工夫することも大事だが、活用方法を考えるべき
 - ・ 非日常のアクションでなく、日常生活への落とし込み方を考えるべき
- ② MY行動宣言のアウトリーチの拡大について
 - ・ 宣言者にインセンティブがあるように

8

MY行動宣言改訂に関する今後の論点整理

- MY行動宣言については、「内容」と「活用方法」の両方の視点があるが、当面は「誰にどう使ってもらうか、その後にどういった行動を期待するか」という「活用方法」に重点を置いて議論・検討することとしたい。
- 内容の見直しに関しては、活用方法の議論の後に、必要に応じて検討することとする。なお、見直しを検討する場合はCOP15-2（12月）で策定される新たな枠組みや3月策定予定の新たな国家戦略の内容も踏まえる。
- 活用方法の検討については、6月のWSでいただいた意見も参考に、来年度は活用のアイデアを実践してみることとする。
（例）
 - ・ 宣言後もLINEやSNS等で定期的にリマインドする
 - ・ 商品のPRに使用していただく等、企業のマーケティング活用
 - ・ 地域やSC等でスタンプラリーのように宣言に応じた場所を回り実際に体験し、スタンプラリー達成で割引等のインセンティブをもらえる
 - ・ アクションに応じた割引制度（例：ふれよう／動物園の割引券）を実施
 - ・ イベントでの活用時はハッシュタグで宣言ができるようにする

→ 本WGでも、ぜひご意見をお聞かせください。

【参考】2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）

- 2010年の生物多様性条約第10回締約国会合（CBD COP10@愛知）の際に設置された産民官からなる**国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）**において普及啓発・発信を行っていたが、10月までにその設置期限を迎えた。
- その後継組織として11月から新たに**2030生物多様性枠組実現日本会議（Japan Conference for 2030 Global Biodiversity Framework）**を設置。
- UNDB-Jとして10年間活動してきた課題等を踏まえ、マルチステークホルダーの連携の場という従前の目的を維持しつつ、さらなる活動の活性化に向けて、下部組織を設けることとした。

<J-GBFの全体構造>

総会（※現行の委員会を継続）：委員全員の参加

幹事会（継続）

**ビジネス
フォーラム（新）**

生物多様性に関するビジネス分野（企業等）への情報提供や関心向上に向けた**経済3団体**を中心とするフォーラム

**地域連携
フォーラム（新）**

生物多様性自治体ネットワーク等と連携し、自治体の現場の生物多様性への知見共有や具体的取組を促すフォーラム

**行動変容WG
（新）**

マルチステークホルダーによる、ナッジやポイント制度等を活用した、市民や企業等の行動変容を促す取組を議論・検討する会議体

➤ 下部組織を設け、主流化に向けた具体的取組を進める。

10

【参考】行動変容ワーキンググループの概要

- 当面、専門的知見を有する学識者等や市民団体やユース団体を中心に、普及啓発に留まらない、具体的な行動変容のための取組を議論・検討する場とする。

（目的）（※設置要綱から）

・ポスト2020生物多様性枠組等の国際目標や、関連する国内戦略等の達成等に向け、生物多様性の主流化のため、国民や企業等各セクターの具体的な行動変容のための取組を議論・検討し、その成果をとりまとめるものとする。

（検討のスコープ）

・生物多様性の主流化（認識の向上）、国民や企業等を対象とした行動変容（例えば、消費者を対象とした場合、日々の暮らしへの訴求 等）に向けた議論・検討を実施する。
・具体的には、消費行動や生産行動、寄付行為などを通じた生物多様性保全に向けた個人や個社の取組を促すための仕組みやフレームワークを検討する。
・検討にあたっては、気候変動や循環経済、SDGs、エシカル、人権など相互補完性のある取組を参照する。また、ナッジやデジタル技術といった新たな知見も活用する。



- 当面は、UNDB-Jの中核的取組であった「**MY行動宣言**」や、**森里川海**といった既に実施されている**個人・団体向けのキャンペーン**について、**ナッジに着目した取組改善**を検討する。
- 上記の検討過程において、ナッジを通じた他の手法（寄付、消費等）へのウィング拡大も併せて検討する。

11